



1. 第26回全国大会・開催のご連絡（2018年10月6日(土)）

第26回全国大会は2018年10月6日(土)に、**東京大学 大学院情報学環・福武ホール**（東京都文京区本郷7-3-1）で開催いたします。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。統一テーマは「情報文化学の確立に向けて」です。（会場へのアクセス：<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>）以下、大会プログラムとなります。

<受付開始>9:30～ 場所：福武ホール地下2階

- ◆ 大会参加費：5,000円（一般会員）、3,000円（学生会員）  
参事会員の大会参加費は不要。開催校の関係者は一律無料。
- ◆ 交流会費：5,000円（一般会員）、3,000円（学生会員）

<開会式> 10:00～10:10 会場：福武ラーニングシアター

開会挨拶 須藤 修（東京大学 学会会長 大会実行委員長）

<午前セッション> 10:10～11:40 \*各発表：30分（発表20分、質疑10分）

①統一テーマ「情報文化学の確立に向けて」 会場：福武ラーニングスタジオ1  
（座長：坂本眞一郎（宮城大学））

発表代表者 （発表者）	発表者所属	発表題目
符 儒徳	開智国際大学	情報文化社会とモノの正四面体モデル ～AI時代に向けて～
河井 延晃	実践女子大学	ビア(S.Beer)の現代的評価へむけて:データ駆動 型社会におけるサイバネティクス
平澤 洋一	広島大学	留学生教育における現代日本文化

②「情報社会」 会場：福武ラーニングスタジオ 2

(座長：趙章恩 (東京大学))

発表代表者 (発表者)	発表者所属	発表題目
亀谷 祥治	对外経済貿易大学	ファイナンスアプローチによる情報の非対称性軽減とプロジェクトマネジメント
村瀬 孝宏	中京学院大学	拡張 straight skeleton 手法による街並み3Dモデルの自動生成
小栗 真弥	名古屋大学大学院情報学 研究科	文化財建造物の茶室を活用したプロジェクションマッピングによる新しい茶会演出の試み

③「情報文化と地域」 会場：福武ラーニングスタジオ 3

(座長：本田正美 (東京工業大学))

発表代表者 (発表者)	発表者所属	発表題目
石川 大希	東京工科大学メディア学部	アニメの聖地巡礼による地域振興について
松浦 遥香	東京工科大学メディア学部	音楽ビジネスと地域復興
荒川 清晟	東京大学大学院学際情報 学府	地域イメージの形成要因に関する研究

<昼食休憩> 11:40~13:00

<役員会> 会場：応接室 11:40~13:00

<基調講演> 会場：福武ラーニングシアター 13:00~14:10

題目：「巨龍が日本を買い尽くす日 —精緻化見込みモデル(ELM)で解き明かす「爆買い」から「越境 EC」の裏側—」

講師：伊藤 直哉(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 教授)

<総 会> 会場：福武ラーニングシアター 14:20～14:50

<午後セッション> 15:00～16:30 \*各発表：30分（発表20分，質疑10分）

④「情報表現」 会場：福武ラーニングスタジオ1

（座長：稲垣秀人(城西国際大学)）

発表代表者 (発表者)	発表者所属	発表題目
貝沼 明華	金城学院大学大学院文学 研究科	文化のフラット化から考察するコスプレの変遷
福浦 友香	北海道大学大学院国際広 報メディア・観光学院	Instagramの「デザイン写真」に関する一考察 —なぜ身体の一部が写り込むのか？—
岩崎 公弥子	金城学院大学	来館者調査に基づく「デジタル魚図鑑」の提案と開 発

⑤「メディア産業」会場：福武ラーニングスタジオ2

（座長：松本淳(法政大学・専修大学)）

発表代表者 (発表者)	発表者所属	発表題目
矢野 雄大	東京工科大学メディア学部	週刊少年漫画雑誌に関する研究
望月 美絵子	東京工科大学メディア学部	CD・DVDにおける特典物の現状と課題
趙 章恩	東京大学	インターネット上の海賊版サイト対策に関する日韓 比較

⑥「公共情報」 会場：福武ラーニングスタジオ3

（座長：平澤洋一(広島大学)）

発表代表者(発表 者)	発表者所属	発表題目
高嶋 恵子	名古屋大学大学院情報学 研究科	行政サービスにおけるスマートスピーカーの活用に向 けた研究 —スマートスピーカーと機能の選定に 関する予備実験—
本田 正美	東京工業大学	情報政策分野における自治体の計画と新規政策採 用の間の空隙

<閉会式> 会場：福武ラーニングシアター 16:40～16:50  
閉会挨拶 須藤 修(東京大学 開催校 代表者)

<交流会> 場所は当日案内 17:00～18:00

### 3. 「JICS 便り」名誉会長 片方 善治 — 今後の情報文化学研究への一提言 —

情報文化学会の活動の一つに、情報文化学会賞の贈賞がある。大賞・国際賞・学会賞などに加えて片方善治賞がある。この賞は本学会の創立以来、いまでも役員として活躍している山下倫理範 教授（立正大学）が提案し、全役員の賛成によって成立した。以来、受賞者はこれを機に、さらなる研究成果をあげていることを意義深く思い、関係した方々へ感謝している。平成 29 年度の贈賞は森田富士男氏（元つくば国際短期大学 教授）の「創造性開発の理論と実践的方法論を情報文化学の体系化研究に関連づけた功績」となった。この研究の一連の論文の中に注目すべき記述がある。今後の研究の対象・方法を横断的方法論に移行すべきであるとの提言である。会員のみなさんは、この提言をどのように受け止めるであろうか。いろいろな意見が出ることを期待している。業績の卓越性もさることながら、“提言”をあえて標題にして関心を呼んだ次第である。